

著者に訊く OUSBooks

シリーズ『岡山学』

岡山理科大学『岡山学』研究会編
吉備人出版



シリーズ構成

- 1 : 備前焼を科学する
- 2 : 吉井川を科学する
- 3 : 旭川を科学する part.1
- 4 : 旭川を科学する part.2
- 5 : 旭川を科学する part.3



社会情報学科
志野 敏夫 教授

①志野先生のご専門の内容について教えてください。

中国・日本の古代史です。さらにそのなかでも、(1)中国皇帝の権力を軍事や当時の社会のあり方から考えること、(2)中国・朝鮮・日本の間の交流について考えること、が主なテーマです。とくに、(2)の地域間交流史を解くやり方として、日本では神社について研究しています。それは、神社に祀られる神様の性格を調べていくと、例えば、朝鮮半島からやってきた鍛冶技術者たちの神様だった、と考えられたりすることがあるからです。

②『シリーズ岡山学』の出版の経緯を教えてください。

1998年に、山陽新聞社が創立120周年記念として「新岡山学」というシンポジウムを行ないました。そのとき、現在の学長である波田善夫先生らが岡山理科大学から講演者として参加されました。それを見た私が、こうした、地域を総合的に研究するということは、まさにできたばかりの総合情報学部の研究テーマだと感じ、理系・文系の先生方に呼びかけて研究会を作り、その成果を毎年本として出版するようになりました。

③岡山学とは、どんな学問なのでしょう？また、『シリーズ岡山学』の内容を教えてください。

岡山学は、岡山という地域を理系・文系の研究分野にまたがって、総合的に研究しようというものです。「〇〇学」と銘打った地域研究は、いま日本各地で行なわれていますが、そのほとんど全てが、歴史・民俗・考古など、いわゆる文系の分野の研究者によって行なわれています。『岡山学』の特徴は、岡山理科大学ですから、地形や地質、植生、地球科学などなど、理系の研究者が中心になって、そこへ歴史などの文系研究者も加わって行っているところにあります。「シリーズ」では、いままでに5冊を出しました。第1回は「備前焼」をテーマに、粘土質や緋襷の科学的解明、備前焼の歴史などについて考えました。そのあとは流域を科学する、と言って、吉井川・旭川流域を地形・地質・植生・治水・環境・歴史・文化・市民活動などなどさまざまな観点から考えています。知っているつもりのことにも、驚くような発見があります。これはこの後も続き、岡山平野をやり、そして高梁川流域を考えます。

④図書館を使う学生にメッセージをお願いします。

何かについて疑問を持ったとき、それをゼロから自分で解こうと思ったら、それはもう大変なことになるでしょう。しかし、図書館に行けば、そこには、それこそ数千年にわたる先人たちの考察の結果が、簡単に手に入ります。しかも、タダ！ こんなお得な存在は他にはないのではないのでしょうか。(涼しいし…)